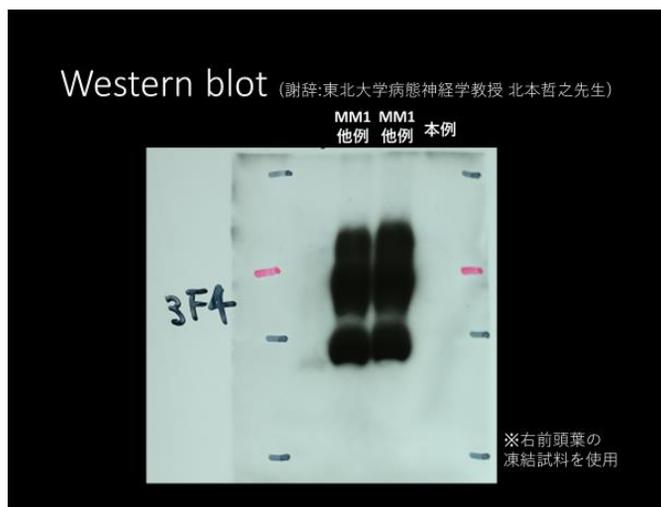
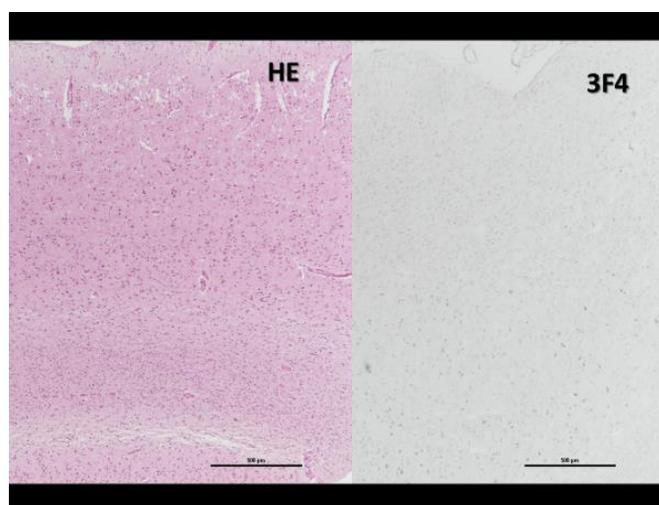
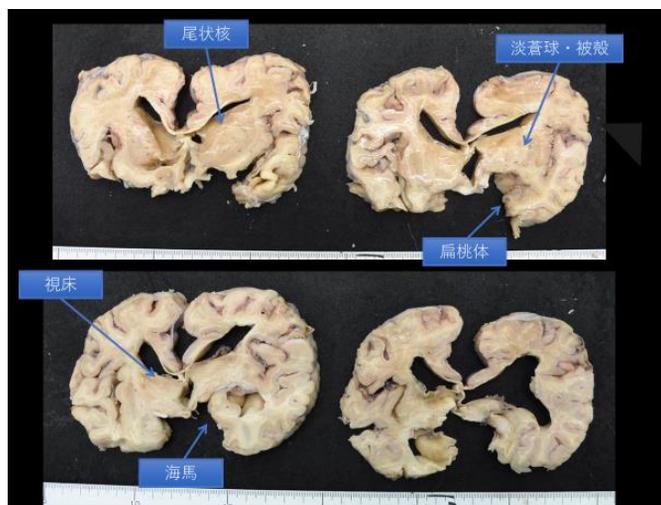


頭部手術歴を有し医原性(dura matter graft associated CJD)と臨床的に診断がされ病理解剖となった1例

研究分担者: 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・病院臨床検査部 高尾昌樹



本邦におけるプリオン病患者のサーベイランスにおいて、我々は病理解剖及び死後脳検体のホルマリン及び凍結保存を行い、病理学的精査・診断を付したデータベースを構築している。プリオン病サーベイランスにおいて、生前に医原性Creutzfeldt-Jakob disease(DCJD)が疑われたが病理解剖により否定できた一例を経験した。信頼性の高いプリオン病データベース構築のために、病理解剖が有用であることを再認識した。

解説

1. 脳室は前後方共に拡大し、大脳皮質・白質、海馬、扁桃体、基底核、視床は萎縮している。
2. 抗プリオン抗体染色による陽性所見はみられない。
3. プリオン病を示唆する所見は、分子生物学的検査でも認めなかった。